



校長室だより 2

黒部市立村椿小学校

文責：校長 寺島紀子

令和 7 年 5 月 9 日

第 4 号

去る 1 日（木）は 1～4 年生の遠足でした。1・2 年生は魚津市埋没林博物館と魚津水族館、3・4 年生は富山市の環水公園富岩運河と富山市科学博物館に出かけてきました。温かい春の陽気の中で、思い切り楽しむことができた一日だったようです。そしてその後の 4 連休。皆様、いかがお過ごしでしたか？

5 月 5 日の立夏を過ぎ、暦の上では初夏となりました。風薫る 5 月、清々しい気持ちで毎日を楽しんでいたらと思います。



楽しい学校を子供がつくる児童会活動

児童会活動は、学校生活を共に楽しく豊かなものにするために、全校児童が参加し進めていく活動です。本校では高学年がリードする形で、代表委員会や委員会活動、集会活動等に取り組んでいます。

★「新入生歓迎集会」で見つけた放送委員会のステキな姿

7 日（水）5 限の「新入生歓迎集会」の企画・運営は、放送委員会（「元気いっぱい放送局」）の担当でした。学校 HP でも紹介したとおり、自己紹介や学校クイズ、無限列車ゲームで全校が楽しみました。

放送委員の子供たちはプログラムの作成や司会進行、クイズの出題やゲームの説明、始めと終わりの言葉等々、限られた人数と期間の中でしっかりと準備を進めてきていたようです。各自の仕事を堂々とやり遂げる姿が実に頼もしく感じられました。

また、実はこの日、放送委員の中の 1 名が体調不良で「欠席します」との連絡が朝に入っていたのですが、その後「元気になったので」と 3 限目頃に登校してきていました。おそらく午後の集会のことが気になって、そのまま休むよりも「学校へ行く」方を選んだのではないのでしょうか。本番では扉の開閉やクイズの出題を真剣な表情で行っていました。ステキです！

★楽しい学校は「自分がつくる みんなでつくる」

昨年度の村椿小学校の目指す姿の合言葉として「だれもが学校づくりの主人公」を掲げていましたが、今年度は「自分がつくる みんなでつくる 村椿小学校」と、少し手直しをしました。これは、学校づくりを一人一人の思いや力、行動で進めるだけでなく、周囲の仲間と協働しながら進めていこうという願いを込めたものです。もちろん、学校の主役である子供たちにも、身近な毎日の行動や児童会活動といった全校的な取組を通して「村椿小学校を日々アップデートしているぞ」という実感をもってほしいと願っています。

★「働く」のは自分のためでもある

働くのは「はた（傍）」を「らく（楽）」にすること、とはよく言われることですが、考えてみると「自分のため」とも言えるのではないのでしょうか。何より、具体的な仕事をしたという事実は「自分の仕事に誰かの役に立っている」「自分が何かしら世の中のために貢献できている」という自信と喜びを生みます。たとえ周囲の人からの「ありがとう」の言葉が毎回はもらえないとしても、自分の中にそうした「貢献できている」という思いをしっかりともてれば、それが「自己有用感」「自己肯定感」につながります。4～6 年生の子供たちには、委員会活動を通して働く喜びを感じてほしいと願っています。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしております！

校長室だよりへの感想

切り取り

できればお名前 or 児童名（

）



楽しみな水曜日の「Happy English」

今年度も毎週水曜日のランチルームでは「Happy English」のコーナーが始まりました。ALT のサマンサ先生と JAT の越後先生が上手にリードしながら、週替わりでさまざまな学年の子供たちと簡単な英語のやりとりを実演し、紹介してくれます。

その日の午前中の授業で取り組んだ内容が中心だからでしょうか、どの子も自信をもって楽しげに発表しています。

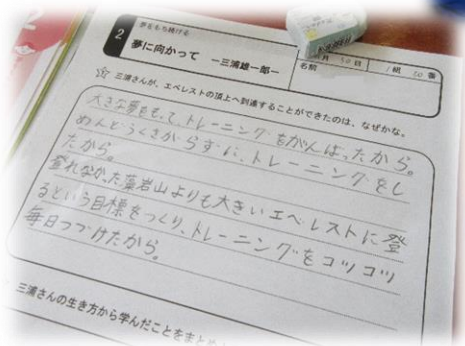
今年度は、「子供たちがもっと自分を表現していけるように」と、学校生活のいろいろな場面を捉えて、児童の発表の機会を増やすように取り組んでいます。この英語のコーナーもちょうどよい機会です。

シリーズ「教室におじゃまします」4月30日(水)6年道徳科の巻

この日の学習は世界的にも有名な冒険家である三浦雄一郎さんを取り上げた「夢に向かって」を題材にしていました。6年生ともなると周りを意識して挙手や発言をためらいがちになるかなと思いきや、6年教室は皆、積極的に授業に取り組んでいます。導入の「夢をもち続けることはなぜ大切なのだろう」という問いかけに「努力する」といういろいろなことを知ることができる「夢が日々の目標となり、モチベーションが上がる」といった意見が続々と上がりました。

その後読み始めた本文には、三浦さんの「世界最高齢エベレスト登頂」挑戦の軌跡が書かれていました。教科書の問いに沿いながら、「三浦さんがエベレストの頂上へ到達することができたのはなぜか」を考えました。まずは自分で考え、その後は近くの友達と考えを交流し参考にしながら、さらに全体の場で意見を発表し合い、動画資料も視聴して、じっくり考えを深めました。

「努力を続けた」「夢をあきらめずもち続けた」「挑戦する気持ちを忘れなかった」等々、さまざまな言葉が飛び交い、6年生の力を感じました。山本千夏先生との2年目の学級生活が丁寧に行われています。



<おまけのひとりごと> 4連休、私はほとんど遠出もせずに過ごしましたが、5日(月)の午後は「コラーレドラマキッズ」の公演を観てきました。「ブンナよ 木からおいてこい」はカエルのブンナを主人公に、「生きるためにはほかの生き物の命を奪わなければならない」という生き物の世界の摂理を考えさせられる内容の演劇でした。セリフはもちろん歌もダンスも上手で、小学生から高校生までそれぞれが自分の役を通して作品の世界のメッセージを伝えている姿に感動しました。コラーレの大ホールがメンテナンスで9月末まで休館中のため、今回はマルチホールでの上演でしたが、その分、子供のパワーを間近に感じることができました。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしております！

校長室だよりへの感想

切り取り

できればお名前 or 児童名 ()